

PRESS RELEASE

令和4年（2022年）7月7日

山形大学アグリフードシステム先端研究センターの設置について Yamagata university Advanced Agri-food System research center (YAAS)

【本件のポイント】

- 全学組織として、新たに「**山形大学アグリフードシステム先端研究センター（YAAS）**」を鶴岡キャンパスに設置した。
- YAASは、**Agri-Food for Tomorrow**を使命とした、食と農を繋ぐイノベーション・コモンズである。
- 農学部、工学部、地域教育学部、医学部の英知を集め、国内外で最先端のアグリフードシステム研究拠点を5年間で構築することが目標。



【概要】

アグリフード科学及びシステム化に関する研究力強化のため、全学の教育研究支援組織として、令和4年7月1日付で新たに「**山形大学アグリフードシステム先端研究センター（YAAS）**」を鶴岡キャンパスに設置した。これまで同キャンパスで進めてきた食料自給圏（スマート・テロワール※1）の研究成果と、全学的な先進的研究拠点（YU-COE※2）の研究成果を有機的に融合させ、大学・研究機関、関連企業、農業従事者等が共創した**オープンイノベーション**によって、**農と食を繋ぐスマートアグリフードシステム**の確立を目指す。文部科学省からの5年間の支援期間で、当該センターを拠点としたイノベーション・コモンズを形成し**国内外で最先端のアグリフードシステム研究拠点**を構築することが目標である。

センターのミッション（果たすべき使命）は**Agri-Food for Tomorrow**（未来の社会を支える食と農の実現）であり、そのビジョン（センターの将来像）は以下の通りである。

- ・生産から、加工、流通販売、社会システムまでの総合的知識集約型オープンイノベーション
- ・山形大学の総合知を結集した学際的研究による産業の高付加価値化の実現
- ・地域に密着した食・健康のバリューチェーン創出をアグリフードビジネスの10次産業化

【背景】

- ① 温暖化などの地球規模での気候変動 ②国内の農業人口の減少・高齢化 ③アジア・アフリカでの人口増加

【今後の展望】

- ・**食の10次産業化**（※3）により、農と食を繋ぐ「**スマートアグリフードシステム**」を確立し、新たな農業を中核とする社会システムの構築等を通じた**持続可能な農業と循環型社会の構築**を目指す。
- ・センターの研究成果を教育コンテンツとして取り入れ、国内外で活躍できる**高度専門職業人材の養成**に貢献する。アジア、アフリカ等からの留学生の教育も高度化し、卒業生を通じた国際貢献の役割も果たす。
- ・地域産業の高付加価値化等による地方創生のために、欧米の大学で見られるような**農業技術普及のエクステンション機能**を有するセンターを目指す（日本の大学として初）。

※用語解説

1. スマート・テロワール＝循環型農業、耕畜連携・農工連携・工商連携、地産地消をキーワードに、市場経済に代わる、畑作を中心にした生産者・加工業者・小売業者・消費者など地域に暮らす皆が繋がる経済の仕組み。
2. YU-COE＝山形大学先進的研究拠点。令和2年度に設置されたC拠点「SDGsに貢献する食・農・環境研究拠点」が今回のYAAS設置の基盤となった。同拠点は令和4年度からS拠点到昇格し、将来のYAASを支える新たな研究シーズの発掘や共同研究の推進の役割を担っていく。
3. 食の10次産業化＝従来の生産（1次産業）、加工（2次）、流通販売（3次）からなる6次産業に、DX、ビックデータ解析、健康コホート分析、食のリテラシー教育などの知的集約産業（4次）を組み合わせることでスマートアグリフードシステムを構築する取組。

お問い合わせ

鶴岡キャンパス長 村山 秀樹（学術研究院教授）

TEL 0235-28-2801 メール mhideki@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

山形大学アグリフードシステム先端研究センター

～農村のまんなかには農と食を繋ぐイノベーション・コモンズ～

設置概要

全学組織として、新たに「**山形大学アグリフードシステム先端研究センター**」を農村地域にある**鶴岡キャンパス**に設置し、アグリフード科学及びシステム化に関する研究力を強化する。これまで同キャンパスで進めてきた食料自給圏（スマート・テロワール）の研究成果と、全学的な先進的研究拠点（YU-COE）の研究成果とを有機的に融合させ、大学・研究機関、関連企業、農業者等が共創した**オープンイノベーションによる農と食を繋ぐスマートアグリフードシステム**を確立し、当該センターを拠点としたイノベーションコモンズを形成し**国内外で最先端のアグリフードシステム研究拠点**の構築を目指す。また、当該センターの研究実績を踏まえ、地域産業の高付加価値化等による地方創生および高度専門職業人材の養成に貢献する。

取り巻く環境

①地球温暖化などの地球規模での気候変動 ②国内の農業人口の減少・高齢化 ③アフリカ・アジアなど世界的な人口増加

センター概要

アグリフードシステム先端研究センター

研究力の強化

サステナブルアグリ生産部門

農業分野におけるAIの開発。
気候変動に対応し進化するスマートアグリ開発研究。

高付加価値機能性フード部門

食品加工、発酵・醸造技術を活用。機能性食品開発への応用。

アグリフードブランディング部門

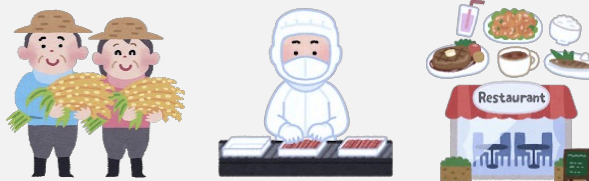
3Dプリンテッドやパッケージ新技術AIをはじめとするDXの推進。ブランディング。

スマートフード社会システム部門

供給側の視点に健康コホートや食のリテラシーといった山形の強みである消費側の視点を融合。

食料自給圏（スマート・テロワール）

循環型食料生産
耕畜連携・農工連携・工商連携
（農工一体）（地産地消）



1次産業 × 2次産業 × 3次産業

有機的融合

先進的研究拠点（YU-COE）

知識集約産業
（山形大学の総合知）



4次産業

食の10次産業化による スマートアグリフードシステム



食の 10次産業化

研究成果を**社会貢献**に展開

研究成果を**教育**に展開

成果・展開

食の10次産業化により、農と食を繋ぐ「スマートアグリフードシステム」を確立し、新たな農業を中核とする社会システムの構築等を通じた**持続可能な農業と循環型社会の構築**を目指す。

本研究成果を教育コンテンツとして取り入れ、国内外で活躍できる**高度専門職業人材の養成**。また、欧米の大学のように、**農業技術普及のエクステンション機能**を有するセンターを目指す（日本の大学として初）。